

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 藤木 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

| 主として「知識」に関する問題(A) | 主として「活用」に関する問題(B) |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 | <ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

- (2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

| 本年度の結果 | 国語A | | 国語B | | 算数A | | 算数B | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 11.0 | 74 | 5.1 | 57 | 11.6 | 77 | 4.9 | 44 |
| 全国 | 11.2 | 75 | 5.2 | 58 | 11.8 | 79 | 5.1 | 46 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | |
|-----|-------------|---|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | ・言語についての知識理解技能に課題がある。・漢字を正しく書いたり読んだりすることに課題がある。漢字練習の仕方を工夫したり、辞書を引く習慣を身に付けたりする必要がある。 |
| | よくできた問題 | ・話し合いにおける報告の説明として適切なものを選択する問題は正答率が少し上回っている。 |
| | 努力が必要な問題 | ・目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読む問題は正答率が低かった。 |

| | | |
|-----|-------------|---|
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | ・目的や意図に応じ適切な言葉遣いで話すなど話す聞くに課題がある。 |
| | よくできた問題 | ・物語を読み具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えを書く問題は少し上回っている。 |
| | 努力が必要な問題 | ・話の構成や内容を工夫し場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す問題は正答率が低かった。 |

| | | |
|-----|-------------|--|
| 算数A | 全体的な傾向や特徴など | ・計算の技能を問われる問題は正答率が高かった。・数量の関係を数直線上に表す問題では無回答率がやや高かったので、毎時間の学習の中で数直線や関係図を使って表すことができるようにする。・基本的な力を身に付け知識理解を高める必要がある。 |
| | よくできた問題 | ・ $6+0$ 、 5×2 の計算の技能を問われる問題は正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・円を使って正五角形をかく問題や、 60×0.4 を 60×4 にして考えることを理解する問題では正答率が低かった。 |

| | | |
|-----|-------------|---|
| 算数B | 全体的な傾向や特徴など | ・数学的な考え方を問われる問題に課題がある。応用問題に対して苦手意識があるので粘り強く取り組めるようにまずは基本的な力を身に付ける必要がある。 |
| | よくできた問題 | ・身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断しその判断を理由に記述する問題は全国平均並みであった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・示された式の中の数の意味を表と関連付けながら正しく解釈しそれを記述する問題は正答率が低かった。 |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概

| 質問紙調査の結果分析 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣については、自分で計画を立て家庭学習を60分以上学習している割合が増えた。 ・携帯スマホ電源OFFの取組により60分未満であるという割合が増えた。 ・「将来の夢や希望を持っていますか」と答えた児童は100%である。また、「人の役に立つ人間になりたい」という児童も増えている。今後も本校の主題である道徳教育を推進していくとともに、今後も夢や希望を持ち続けていけるように支援をしていく。 ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を向けさせるよう朝自習の視写の時間に要約するような学習を取り入れる。 |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「話し合い活動について深まっていない」という課題があったが、発達段階に応じた話し合いの型や話し合いモデルを職員の共通理解のもと作成した。各学級に掲示し各教科で取り組む。 ・算数科の学習への関心が薄く思考力が問われる問題が苦手という課題から、6年生を3つのグループに分け、9月下旬より担任、教務、市費講師による少人数学習を行っている。 |
|--|

② 家庭生活習慣等に関する取組

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に、家庭学習「藤木スタイル」を作成した。中学校と情報交換を行い、中学2・3年生のレベルまで到達させるためには小学校段階でどこまでの力をつけるとよいか学力向上部会で話し合いを行った。児童に家庭学習をするときの約束を説明した。また、保護者にもプリントを配布。毎学期「家庭学習チャレンジ週間」を設けている。 ・生活習慣について規則正しい生活をすることや家庭でのルールについて家庭で話をしてもらうよう、保健便りや学年通信などで啓発する。 |
|---|